

fidata HFAD10-UBX の導入(14)

—MQA-CD 再生(3)—

1. はじめに

前報(13)に引き続き、MQA-CD 再生の音質を評価します。

2. fidata HFAD10-UBX の試聴情報

接続は、前報(1)のとおりです。

HFAS1-S10←HFAD10-UBX (to Host B 端子)

HFAD10-UBX (to Device for Audio A 端子) →Brooklyn DAC+

試聴対象の MQA-CD は、下記のものとしします。

Universal Music UCCG-40069

ベートーベン 交響曲第 5 番・第 7 番

カルロス・クライバー指揮ウィーンフィル

Universal Music UCCG-40082

マーラー 交響曲第 4 番

クラウディオ・アバド指揮ウィーンフィル

Universal Music UCCG-40081

ブラームス 交響曲第 1 番

カール・ベーム指揮ベルリンフィル

Universal Music UCCG-40072

モーツアルト レクイエム

カール・ベーム指揮ウィーンフィル

3. fidata HFAD10-UBX の試聴結果

今回の MQA-CD はすべて UNIVERSAL MUSIC レーベルであり、Brooklyn DAC+ の表示は、352.8KHz となっています。

ベートーベンの交響曲第 5 番・第 7 番は、オリジナルはドイツグラモフォンレーベルで 1974 年と 1976 年の録音です。2 曲の各楽章ともお馴染みですが、クライバーにかかると、抑揚、緩急自在です。Brooklyn DAC+で位相反転を行いますと、定位が明瞭になり、7 番の第 2 楽章などは音が澄んでくるのが分かります。

マーラーの交響曲第 4 番は、オリジナルはドイツグラモフォンレーベルで 1977 年の録音です。静かな出だしから始まり、木管が競いあうように盛大に歌い盛り上げていきます。Brooklyn DAC+で位相反転を行いますと、音の焦点があって、木管の位置

関係も明瞭になります。

ブラームスの交響曲第1番は、オリジナルはドイツグラモフォンレーベルで1959年の録音です。荘厳で重厚な出だしから始まり、メランコリックなロマンチズムの表情も交えながら展開していきます。Brooklyn DAC+で位相反転を行いますと、重層的な音の重なりが分離し、定位も明瞭になります。

モーツァルトのレクイエムは、オリジナルはドイツグラモフォンレーベルで1974年の録音です。合唱は力強く、ソリストの歌唱は生き生きとよく伸び、全体のバランスもよく採れています。Brooklyn DAC+で位相反転を行いますと、合唱がさらに分離し、全体の混とんとしていた状況が整理されてきます。

4. まとめ

HFAS1-S10とHFAD10-UBXの組み合わせによるCD再生は、これまでのHFAS1-S10とPC用ドライブとUSBハブの組み合わせによるCD再生と一線を画すものです。アナログマスター時代からのMQA-CDでは、位相反転により、音の焦点があって定位も明瞭になります。

以上